

# コープの産直事業

## 生産者とともに歩みはじめて 39 年

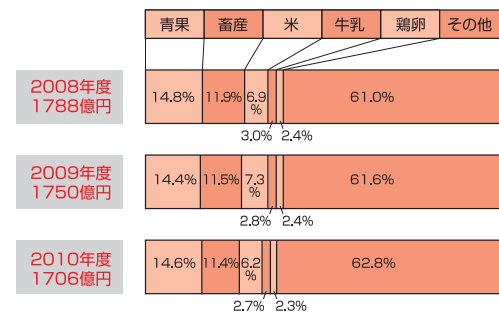
### コープは組合員と生産者のかかわりを大切に、互いに信頼し努力し商品をつくり続けます

コープは商品を通じて組合員の暮らしと健康を守ってきました。そして、より「くらしやすい社会・環境の実現」に貢献していきたいと考えています。コープの産地との取り組みは、1972年の静岡の志太園芸とのいちごの取引引きから始まりました。今では農産物だけでなく畜産や水産、米などにも広がっています。2008年からは品質管理のさらなる充実や商品の安定確保などを目的に日本生協連との共同開発をすすめ、共同開発品は加工品や非食品だけでなく、牛乳や米にまで及んでいます。

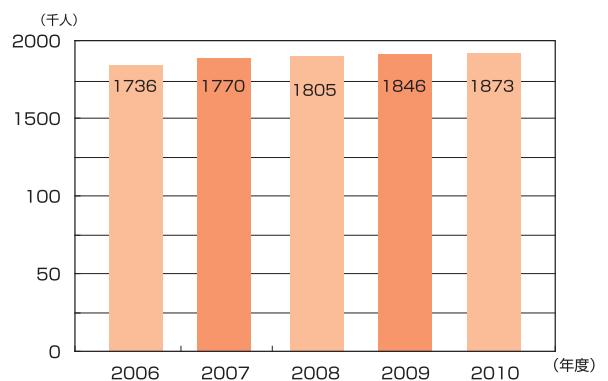
■コープは商品活動の歴史を通じて、組合員の商品に対する要望を「コープで扱う商品5つの願い」としてまとめています。コープの産直事業は「コープで扱う商品5つの願い」を具体化する取り組みです。

- ①より安全 …………… 組合員の健康を支える、より安全で信頼できる品質
- ②より安く …………… くらしを守り、よりよいくらしのための価格の安さ
- ③環境に配慮 …………… 持続的に発展可能な社会のために、環境に配慮した商品
- ④正しい情報、適正表示 …… 商品選択のための適切な情報の提供・適正表示と消費者教育
- ⑤組合員参加 …………… 組合員の商品への6つのかかわり(利用する/意見を出す/学習する/普及する/開発・改善する/評価する)を広げます

#### ●食品供給高に占める部門割合



#### ●組合員数の推移



## 産直をとりまく情勢

2010年は、新たに「食料・農業・農村基本計画」の閣議決定、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催、環太平洋経済連携協定(TPP)を巡る議論など世界的な食料事情や日本の農業問題について国民の関心が集まりました。また、改めて生物多様性や世界の環境について注目が集まった年となり、持続可能な社会のあり方についても多くの議論がなされました。

## コープのとりくみ

2010年、コープは、産直事業の強化をめざした新しいかたちの産直「まるごと産直」を始めました。また、食料自給力の強化や日本の農業の応援を目的に、茶味豚・はぐくみ鶏・味菜卵の豚や鶏に「飼料用米給与」をおこなっています。組合員や職員が飼料用米の田植えに参加したり、茶味豚の試食会を155会場で開催するなど体験やお知らせ活動にも多くの組合員が参加しました。

2011年度は「まるごと産直」の品目や産地拡大を目指すとともに、米を中心にした商品を利用することで産地を応援する、「おいしいごはんプロジェクト」を始めます。

これからもコープは、商品を真ん中に生産者と組合員に「コープがあった良かった」と喜んでいただけるよう全力で歩んでいきます。



「茶味豚」の産地で飼料用米の田植え

## コープの商品に関わる取り組みの歴史

組合員はコープに加入するとき、コープへの期待を持って加入します。その期待（特にコープで扱う商品への期待）も時代とともに変化してきました。コープは今までもそしてこれからも、組合員の思いを大切にしながら社会の変化の中で産地・生産者とともに歩み続けています。

コープの産直事業		コープの産直事業	
1955	牛乳値上げに反対し 10 円牛乳運動展開	1989	卵「ふれあいパック」開発 低農薬栽培について実験圃場の設置
1966	はじめて生協の指定規格のタラコ開発：タール系色素→天然色素など変更	1990	ポストハーベスト農薬不使用のバナナ供給開始 オーグメダルビーフの開発 冷凍野菜直輸入の扱い開始 生協と農協の出資でグリーンピア設立
1969	美味しい米を安く、米の共同購入開始	1991	無農薬フィリピンミンダナオバナナ供給開始、 「農薬使用・栽培法指標（案）」に基づいた「クローバーマーク」のついたかぼちゃ・にんじん、カリフォルニア産ブロッコリーの開発 残留農薬自主基準の運用開始
1967	しずおかで原乳値上げ発表をうけ 15 円牛乳運動	1993	グリーン・プログラム運用開始 グリーンボックス供給開始
1970	COOP3.2 牛乳発売	1995	産地指定ブレンド米「ふれあい米」開始 鹿児島産うなぎ、水産部門の第 1 号グリーン・プログラム「ブラックタイガー」の開発 牛乳の「製造日」併記要請 オーストラリア産地指定リベリナビーフ、産地指定飛騨和牛の取り扱い開始 アメリカ産のびのびポーク、鹿児島県産黒豚の開始 奥州赤鶏の開始
1972	しずおかで志太園芸グループといちご、翌 73 年「完熟トマト」取り扱いを開始	1996	組合員開発チームにより「はぐくみ鶏」開発
1973	中村果実グループの「桃・ぶどう」開始、銘柄米「白雪米」の扱い開始 無着色たらこの開発	1997	水産の吉田焼津産うなぎの取り扱い開始
1974	ノーワックスみかんの取り扱い開始、 鹿児島経済連と産直豚の取り扱い開始、 国産レモンの開発、乳の品質検査開始	1998	水産のグリーン・プログラム改定 茶美豚開発、「コープの産直」運用開始
1975	宮城松島産かきの取り扱い開始 完熟トマトの開発・無着色ふきの取り扱い開始	2001	コープ牛乳品質不良事故発生
1976	佐賀経済連と鶏肉の事業提携スタート 熊本果実連と提携しジュース、ドリンク開発 開拓ぶたの取り扱い開始	2002	はぐくみ鶏加工品産地偽装事件発生
1977	日付表示した卵を供給開始	2005	グリーン・プログラム表示改訂
1978	岩手より牛肉の直送開始 OPP・TBZ を使用しないレモンの取り扱い開始	2006	グリーン・プログラム改定
1979	無漂白れんこんの取り扱い開始	2008	食と食料政策策定、安全・安心の信頼回復アクションプログラム策定と実践
1982	岩手県石農協と牛の産地提携及び同県内で豚肉、 鶏肉の扱い開始 台湾よりうなぎの輸入開始 産地・工場見学広がる（農協へは 14 回 1690 人）	2009	フェアトレードバナナの発売、茶美豚・はぐくみ鶏・味菜卵の親鶏へ給与する飼料用米生産と給与が始まる、産地確認会開始
1983	広島産生カキ取り扱い開始 コープの「卵の 4 つの取り扱い基準」作成	2010	JA ぶらの、ながさき南部生産組合と「まるごと産直」開始
1984	産直愛媛豚の開発 しずおかで国産レモンの植樹祭を実施		
1985	養殖わかめの開発（三浦市金田漁協と提携）、 タイ産ブラックタイガー共同仕入		
1987	残留農薬の検査開始 鹿児島県開拓農協と第 1 回目の産地交流実施		

\* 1946 年「コープかながわ」の前身のひとつ「川崎生協」が誕生、1949 年「コープしずおか」の前身のひとつ「静岡民主生活協同組合」が設立、1973 年「市民生協やまなし」の前身である「山梨中央市民生活協同組合」が誕生。1990 年「ユーコープ事業連合」が発足。